

武家子集

中七  
子記

内閣文庫	和書類	二七四八七	三冊	二〇一
架	架	架	架	架

内閣文庫	番號	和 27487
冊數	3	( 2 )
函號	201	676
三冊	三架	七六八七
架	架	架



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



律居集中卷

戀之部

戀



うつせりのねらうほくのちうきん申さぬ人をねむるは  
 いのちの琴の糸をぬてうきりひりれて世をほろへく  
 くれねさふらむのきききききききききききききききき  
 たまひんまふまふなりてりたにきりねるまふまふまふ  
 けせふあつてぬるよめ曉ハかすまおをかつくよたつさりて  
 かつたるもの人まくりよとねらひのさ法に信んよせ付  
 かなむのつらなき袖をたつりよとねらひのさ法に信んよせ付

初戀



忍意

意すんはたわけぢまんと父たの目をそらすむる忍びくふ  
人たのむがわつれうのうれうさあをふらうきりりすは  
控はまてあをれんめうをなふらとてきまて世をうら  
祢をれーくみのほつれをさうしてこそぬ人の心うら  
山うら門田うらうらうら子ねをりてこそみえぬらちうらぬ  
たら波のたてきんてんあうらそのおのうらえそつう  
うらふらうたの親のさうやうてまよふてまよふのうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
ゆきすうの毎のさうふたうけのあはれさうねのーらぬ  
人月おちとあうらうらうらうらうらうらうらうらうら

忍世意

逢不會意

試意

聞意

見意

行路見意

僅見意

通書意

祈難逢意

祈後世意

誓意

契意

契久意

契不逢意

馴意

馴不言意

はうらうらたひひと申すほとあらふ命ふうて祈はりのら  
うらうらき祈をりのしてそくふ後の世へのむあう佛が  
妹とふ中のちきうらうらうらうらうらうらうらうら  
さうらこのちうらうけ常まうらてむすよんいらうらうけ  
うらまてんあうらうらう川のさうさぬになうらん世してあやま  
むのをのうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
様麻のをよのうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
おはらぬあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
年月成うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
さうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら



難馴意

疑意

疑真偽意

疑行未意

被疑意

互疑意

詞和不逢意

ら比くよきおの麻衣なるすれね身ふりきま又十ふ  
 山うらきまそと申れとぬらうそのねまはまさらぬ意たす  
 うたういーらのあめのほのをれてこらや意の誠なるらん  
 家ねらぬ人ま枝やうそへらんそのてうそのあさなめてあて  
 春くれいたれとねの目よほれと申人のやうそふそらうね  
 ひそすうら小枝たてちておをのこねえしむらんいらそらしこ  
 りのみふねひらとそーのさうをさうせめ申らん後そあやあま  
 ひさりのと名ふそたてれ枝うえをねひけ申す小風た吹あひ  
 二くして枝やうぬをひらううてうらやんにうたふんせん  
 家んさには士うねかのうらやんやんふつられて思ひくよ

不来意

訪不意意

待意

忍待意

連夜待意

寐待意

月前待意

兩夜待意

待期意

別意

あうらうてゆらんをひてうそとさこめてまてとねやとれぬ  
 待ぬらんらかのうの一人寝てあうらん人をりてんやん  
 とそれつるぬすんあつーそらうめーた待習そへわひつとぬん  
 ねの戸をさうて待ぬにきたれ言せぬ人をさうううぬすう  
 寂ぬらん待ちうひてくひあうん松の風うんおらうきいせす  
 つきちんらん人のあてねやううや時をさうやうてんうね  
 こそらふまうて人を待うひのあふゆうりの月のうけうね  
 とそれとたりんい〜待うめてぬのあるぬを踏ふさいき  
 志んたし社迎のむらきた二ふうりいらふ出らん時をそらまて  
 大めんちきさひつるきぬくの袖のちをらさいとちう



正襟つる袖をわらうと時と日つきぬ〜ふちうあつきのとこ  
 あ〜くふくさぬよりの夜よれおいつたききぬ〜の袖  
 きぬ〜のふのる〜ろろりあひう〜さ〜さ〜すれ  
 あつてこそ〜い〜おのるおれてい〜られ形と〜りよ〜  
 らひ〜ふおれて通〜ハ〜〜〜たの〜平おひせ〜らん  
 ちりす〜ふ〜さ〜ち〜た〜ん〜た〜り〜あ〜く〜し〜の〜有〜せ〜  
 行貝の〜え〜おき〜す〜は〜あ〜の〜ち〜の〜ろ〜ふ〜人の〜り〜らん  
 むつ〜あ〜と〜あ〜た〜を〜う〜ぬ〜た〜う〜け〜を〜あ〜ふ〜と〜め〜ら〜し〜人〜を〜  
 春の〜さ〜ふ〜あ〜つ〜と〜す〜れ〜と〜き〜の〜尾〜を〜う〜し〜う〜た〜る〜お〜お〜あ〜ら〜ぬ  
 ち〜き〜な〜〜り〜た〜え〜ふ〜さ〜を〜ぬ〜れ〜ぬ〜え〜と〜ろ〜ろ〜あ〜て〜い〜る〜と〜し〜

別帰意

非心離意

連夜通意

名立意

無名立意

白地意

顯意

所顯意

將顯意

増意

獸人目意

獸雨意

被獸意

悔意

憂意

竹ふり〜さ〜名〜あ〜り〜せ〜た〜さ〜ふ〜志〜の〜ひ〜て〜ま〜を〜さ〜さ〜た〜ぬ〜ひ〜ぬ〜  
 ち〜く〜ぬ〜い〜ふ〜出〜ち〜を〜い〜く〜せん〜杖〜の〜ろ〜ろ〜の〜ろ〜ろ〜と〜り〜よ〜らん  
 姉〜ら〜さ〜る〜ね〜め〜を〜ろ〜ろ〜の〜あ〜を〜く〜ひ〜ぬ〜ぬ〜れ〜に〜き〜ふ〜ま〜り〜て〜さ〜て〜ぬ〜  
 わ〜ら〜り〜〜あ〜ら〜せん〜ん〜う〜ぬ〜せ〜の〜中〜の〜さ〜ふ〜人〜め〜を〜あ〜ら〜ら〜ひ〜ハ  
 ぬ〜ら〜ら〜い〜ぬ〜ぬ〜ひ〜ち〜の〜あ〜ま〜り〜て〜さ〜の〜〜ち〜ま〜ら〜〜甲〜や〜た〜え〜あ〜ん  
 ち〜を〜〜ら〜ぬ〜お〜〜平〜人〜の〜さ〜ら〜〜ん〜ほ〜き〜名〜ひ〜を〜さ〜る〜ハ〜又〜悔  
 大〜く〜ふ〜け〜あ〜〜ぬ〜め〜を〜い〜つ〜と〜ろ〜と〜ま〜ら〜ぬ〜程〜を〜さ〜ら〜ぬ〜り〜り〜し〜く  
 俗〜を〜く〜い〜ぬ〜り〜〜な〜ら〜ろ〜せ〜て〜人〜あ〜く〜ら〜ぬ〜世〜を〜や〜ら〜ら〜ん  
 妹〜と〜あ〜む〜す〜い〜〜筆〜を〜さ〜ら〜た〜あ〜〜人〜あ〜ら〜れ〜て〜さ〜ら〜さ〜ん〜ま〜る  
 ち〜ろ〜ろ〜ゆ〜く〜人〜ぬ〜ら〜ら〜ら〜ら〜せ〜ん〜世〜の〜た〜ら〜り〜ん〜ま〜ぬ〜恥〜が〜



驚意

きさの跡はこゝろをすま村小豆めらさるゝ驚れすゝうぬ

被妨意

おとほくいひくゝまのあをきりぬそ中人こゝろをむらん

親小妨らる

くらち母の母まつむよりいせんおのけのまよこあこつゝあり

被騷意

あませぬ冬のうりふきわかれて人めんこむつりのせや

遠意

くくこの天のをあゆめぬくくぬきををきりんをきくゝぬ

隔遠路意

くらちん君をたのむるのうたはきこあん限りりらうゆ

占意

まほろのるふおよきうとくあーおをくゝるとらよあはらきぬ

思

きすれいぬれきよつけうきよつけぬいいたえぬせよきぬ 静々

思和意

いそれききり心をかきた力のとらて祥ちうん枕うらうて

思高意

くらちあー人にゆりきむこれの内よあたれてうらうたぬ

思旧意

そとあむすおき初ーくくちまきこきぬのんいさうんやせー

思異人意

ほろをよなれぬまうん味うたぬおひきまおのねはきまおし

思二人意

武秀あまうけてあねくくあふあれた申めくくむとあふ

被忘意

わすれん思ふおまのなをきくゝくそのやうらあおたえよ

恨意

あれてん君を恨えんてーおをつれあき人の前いゝうする

不絶意

今をりーあふおあらうて命をぬかす人のうらうりきか

將絶意

ぬれくて今を疑いと名うらうんにをきん後そぬりき

迷意

のたらーしらすのえき一ぬふたのうーぬたきねんとすらん

限一夜意

まあそのるけうらそまのハすのねやいひまんとやぬらん

限一夜意

えよとらよほくえぬあらぬうらう香を思ふにぬの形えくる



闇夜意

雉面意

不并是非意

虚成实意

实成虚意

遊里意

幼意

老意

くそ玉のやみの夜をたうりよのこきふらやうくくちうらむ

まふくふみえぬらうらめき夜をうらむくく

うらめといえや人の絶ちまのいそひらうつれふうらまし

まふくくぬめくまふくふらあらぬまけをけうか合つ

つひうそま意のまふくくすれはらうらうらにぬのあうらま

くつうまのめくくまらそ川さけの舟のうまきたるまふく

ふらうのあのはれふさをたれてぬふたあま意ふすうら

おのほふをこ女のぬらうをみうら意はあうらまふらう

せんくくくあまをうくくうらまよりあま意のうら

うつせこの人のうらうらうらうらうらうらうらうらうら

老後意

致老意

致身意

立春意

春意

首夏意

やせまき意のうられをてそくたひまらせん人のりま

ををうよまうくまらる本の枝は春のうらうの花をわすれぬ

うらまきをてせふあまうあま草はわうぬそ人ふつまう

花すまきまぬけはぬひく世の中にまのめねるままぬぬ

はれあまはあまのまあう春たちて二年うけの意ふすうら

たうらまき意の色うにまうたれてむつとねひみるわくまじ

人のあいつふらふらて意草は春のたふねひまうらぬ

春ちうれは野のまふちうひうれてそくちまき意にあくられせん

まうらぬ人のうらぬうらうら春のあよのたあう月う那

わふらうらあまの夜のまきんくうらまき意のうらぬ











意鐘

あこさまらねとらうきれつね夕のうよふかひハミ世あうらと

意竹

本もあらひ草も又あらひのさるめりたはのたけをさすれと

意糸

けいとのそんれくそまねふよりあすうそあらはこそあら先

意妬

目ふらえぬ人のあやきさまよりそらのためのつの人たひらる

意人事

あちきちやくさるち志あ人ののりくさのそ先にいん命令

意黒髪

今日あんで夕の夜のあすくらまにちうひよきこらんまここのこ

意重荷

いつまをそ逢を流るふたひゆらんさのまきあのとこの世や

意盗人

あよあにつまき名をたひぬるかあきのまきあめこつけあらん

意不分人

垣とゆる罪あゆわらそまこ白まあす人ありととう先られてん

くちらそめつうあれと早んれりのくうハ待ふたくらん

男色

をそねめつこまあちうりしこまあめらんこまききあすも。ん

そいよまて何うにはいこはらうねのわきとあうらうこまねやせん

尼をこよ

はねてあひりてやえま一何おけあをうこほるあまの拾母

世をううのあまてあこら思髪をたひらうてハなれやせぬ

人の子をこよ

おちんくそそのあまあゆ山んこの下うけハらふやハ出ぬ

狂女をこよ

うつちさき人おたひをうらうらうらあふくこまけうね

病人をこよ

たをちめめちちめゆらにまあ申をひらうふあさうらんそあま

罪人をこよ

天は罪をう人はおふたひをまきらうらうらあまあうま

乞児をこよ

おろるいずのちまてのうたひたハ改うより人の心をそしく

ねえとハねんらあおをこよ神ハ川まであゆむ伊智の神ハ



せうりやの妊娠のころは

うつふいあふととえやはいさるたひ林のむすふ中とぬみこ  
せうりやの夕落のころは

あつらひのきりぎりすのうららかに  
せうりやの情死のころは

あつらひのきりぎりすのうららかに  
あつらひの死にす

あつらひのきりぎりすのうららかに  
あつらひの死にす

あつらひのきりぎりすのうららかに

あつらひのきりぎりすのうららかに

あつらひのきりぎりすのうららかに

あつらひのきりぎりすのうららかに

あつらひのきりぎりすのうららかに

あつらひのきりぎりすのうららかに



吾妻

あゝさうなれりし昔とていふに人のあゝさうなれ

人妻

人ほむむりやうとちいされ福と人のええにありふせん

知らぬちきりや

まゝのにせよくたのしむ時迄のまゝに毎のつまそとていふに

たのみのもろや

うゝさうり思ひあへて世の人のきらぬあつをむすよりれぬ

くたくたのみの

たのきつさすうふ年を古ねなれいまさらて思ひのこそ

りきこれま

むすひつるふらうとまそるの帯くたくたのみのとけ今より

うきりや

われまゝいささなれん達とていふに今と許るふおえ

思つていぬのうそのたゆらうれりやそおらうねた

ちんくうらや

つれなき夜ちんくおおにつまされてちんくの意の袖をぬれ

あゝ女のい

ま先ぬきつとていふに人やうらむらんとていふにたのき

あゝ女のいよりおとてまうとていふにたをせらるるが依勢のあゝ

あゝ女のいよて返しのらねらひやうら

たのきむき杖の膝膝のころなむもあゝ人のいよていふに



















寄草意

竹ちあらよのわさしよのうさおつてうさうしおとつひの福さ  
りつまつてうららわてこそきこえ花んさきまんうきかてわて  
れえ初てやけれとちあらたりしあつひのひまき花たてぬ  
きこらひおひこり草の名にあつてうさひみよりなき  
きらひよとわさしよ草あらし思ひ名のわふけたま  
こちのあつてうさひおふぬれ風をさあひ草のんた  
花んさきまもてうさひおふぬれうさひのためのうさ草  
たれしよさうさあつておちあつたのりきふもちれまう  
思つて日ササのやけの尾ま人をあつたの草にたひり  
こうれつちうさうさわつた日あつたあふさあつたあつた

寄草慕意

わきんてふおつてよ花の山やに何れもくのたひひあつて

寄山吹意

わきんてふおつてよ花の山やに何れもくのたひひあつて

寄夏草意

むうしようまのさふたうらんふ人ていさうこそちたし

寄萩意

よひくふねてや風さわうれておにねられぬおの下をさ

寄女郎花意

たをうやあつた昔いさうこいさうのれいのをさうへをい

寄蒿意

をやうりさあつたうさうの草の名のさう人あつたまさうは

寄菅意

はつておちをさうさうすけうさあむおさううたふ色にあり

寄藻意

たれく人いあつたねあつたのさうまをのこあつたさま

寄貝意

我妹よと今時のさあつた安貝あつたのさうくわう拾りん



寄鳥意

人ちらぬおきし春は意ありしはまをこひて平書さるらん  
きぬへのきさしをあらはあてくふをききうりてきいあらん  
春きさしををきしちきさわらん人へのきさしをせり  
たあつうね人よきさるねおれけとひひとたえきたくやいける  
才をうてたぬいつら春のうていむをさすらんつうさ  
こころた人をいつかて人までいあねまはね門こころ  
秋の秋の影のたやの財すきたえねんおを何のうとこ  
はらささまの池のあさるのつらねらひて人を福たすん  
あさるおのうにたねつてよきむにあらねつらね  
人目めはらさしきさるうらやまうせふさくうらぬさしけあ

寄鳥默意

寄水鳥意

寄鴟意

寄水鷄意

寄帰雁意

寄呼子鳥意

寄鶯意

寄虫意

- 寄夏虫意
- 寄蕃意
- 寄魚意
- 寄寺意
- 寄庭意

意はらふ人のさう跡のきこのまの麻のちのきをひつらん  
おとあをほらちすれあねりねらうらうとを麻の雉ん  
たさうらわのおをなやまきさるんつらねの神あまともるん  
ささふおれはゆいおねらてはうんれなまきよとのあいのね  
むいおれいよとせせえうねいれ人につれあまに福の抱を  
ちうとらひこうとらひあまのせえん学んれあまあうりり  
意すれいうきこのをせすい岩くのあくるちううの友はんせん  
たそろきさたりとをらうて秋のこのはくのあまあまのよき  
あうらぬ山寺人のうれたきに福をえをらうあうまのう  
あくのなつたきよとせうらうてあつれとらぬとらぬ



寄柳意

寄淚意

寄衣意

人よりハおもふにわらわら山つハハわらわらぬてさくれそすれ  
 月夜そそくちうほろみ歎きうやこハ涙を何ふまうへん  
 あさうらぬんたさうしうそらん社をうさひてあさうらぬ  
 交のよハ人福てそあつられとうささう夜にうらうらぬ  
 けさうのあつさ心の恋ねうすうやあまのみのとて  
 うさひきさる冬の夜のあはれとてあまうらういとされせん  
 れりくたれぬさうなまひ眼のをこの夜のうささきさあや  
 しうらハ帯のむすい先長き世成んけにうららぬさくらせむ  
 まうらて時をえあをむすひあめたれたれ人よらそわ  
 へたうらてわらわらぬわらわらぬの後はあひまふうあらぬ

寄帯意

寄蚊帳意

寄倭文布意

寄物音意

寄扇意

寄太刀意

寄弓意

寄弓弦意

寄矢意

寄火術意

きうらわらあつぬのそこのひさち帯うらうらてたふ人にいされ  
 友のよハ人目さうさうたうの数のむりのたまきぬうきうよつ  
 わきんらうたひの志うたうたういこのうきたうこいとたをせやせん  
 笛うらハ時うらうくはらのそこのむつまきをうらうわすれん  
 秋風の人のふさうらうらわらわらあまきの捨られよらう  
 ねつうやハつうのそこのええれたたひいさうらうらうらまじ  
 本とあらうつきうらあゆうらまうらをのてらさうらうてふりま  
 ねらうら人のふさうらうらゆらうらうらうらうらうらうら  
 あつさうらうらうらやのねうらうらうらうらうらうらうら  
 火をさせはさうらうらむの年をふわらうらうらうらうらおをうらうら



寄笠意

ふあむやはさきさきしつらふ人ふきまぬはふふきま

寄船意

今又ふあぬのーほ舟族られて意ふくちまふふあふのこや

寄皮意

たなはらのばをさふたてーうぬふふらのやうれさるるく

寄繪意

あつれあて取捨ふまこりけうのゆんくくの中ぬ

寄薪意

山けの人たすさめぬくぬきたふ薪とぬてさふら申てふ

寄酒意

ほいらふのたらんやこくすらんていさぬふ人さうふあ

寄餅意

春ゆくむつあつ中をぬりきこぬちひうふうををならて

意のちうら哉古き東哥ふちうすうて

小田ういせぬのう牛をーりまらう一日くけてのせうふお

女うらうてうたの歌

意

たらちのおやうくのむすひつるえうをらうふ時のすまらん

さきめりた人をまきうはぬやーまのいぬおののお名ひうぬ

初意

ねちまふおほなたとをうをたて意のうまきハ知はしえりり

ぬうれてまうーうりし時よりを意てふりのハをうをたにる

初逢意

ちきりーんをむさうにぬくわいーとねりよ珍枕うぬ

初恋

君りせよわきんをうてあそひつるわらんを今れいすまぬ

約意

日くれなやうてそ人ハ福むのその志をうてはて君きまきん

路中途意

あーひきの山のまらうぬらさーとんいー君ふらふあふこふ

難離意

新うらちうてあふこつうてみ君ふたたくひてありまーう

来不留意

侍うらうー門の車のすまぬれたぬるうらふあふさるうく



恨鳥意

わがまうくをよきとてふるふもあされやまういぬり

後朝意

ちいりあひてあしたをききたまうの袖あまねるあまひが

悔意

くやうわらわらんそくちうれんかううれあひをうへ

歿行未意

女席花ねひりあきををうそよまぬふたうのこまねやせん

恥身意

原ふまはうくおひまうたひまうまそゆきうのうらあはて

意妬

つれなまき人をうのけすのりゆりのちハ神のまふく

寄月意

あつたふあはうくえうくえうきよき月あふまうまよさぬ

寄槿意

よせううまう車にまうりりてまひてれをたよあうわのふ

寄野意

いはやその形迹のくさりのもろむきてねひまぬくそまうま先甲

寄糸意

そそあうぬういのまよたねをくのたよそあのをまよこころハ

寄雨意

しひくゆくまのあつたやねつちんはまはまもいぬさうりりハ

寄鞠意

いほのうちのゆきあはれすうまうつをひらまをこせせハ

くろくむねを

ねめまきまうくろくゆをあはあその人目のなとねんハ

くろくむねを

たひひくふまうたせハまをるあゆのうくつうを恨こハ

まてまうハ

人そのまらまをまをまうりまらひまてまひてんままのま







夜山路

山すみ

山麓たつ川ふ母あり

名野山

不二の山

神路山

吉野山

峠

多根山をぬぐるふまつの木の梢をよすこころを

わたりてこれハ山を静らぬれあらはるわく梅よこころ

まごのころをたつ山にさつぬくおのちの母をさつ

つらぬふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

こころのこころけあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

それそのあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

うすいふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

あつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬあつらふらぬ

名野岡

岡

清水

谷川

谷

溪水

名野坂

坂路







滝川

浴滝

名所滝

温泉

有馬温泉

諏訪温泉

伊香保出湯

川

うしとたけ舟は流せしむる流され山はつらいつすまねきらる  
 やむ人のすむるさねらうらうらひてふふうううううううううう  
 奥はくまの湯のこひくあり林はこまきうらうらうらうらうらうら  
 音まのの湯のこまきふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 やむ人のすむるさねらうらうらひてふふうううううううううう  
 やまひふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 まつたねのりしゆのゆひまきふふふふふふふふふふふふふふ  
 いうちらのおさうのうてにふふふふふふふふふふふふふふふ  
 まつてくううううううううううううううううううううううう  
 よここまき流るるうううううううううううううううううううう

川水

大川

名所川

五十鈴川

不二川

古渡

海

海路

ふふれいつはふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 ままの山の麓つせああひてちううううううううううううう  
 山の名の妹あふううううううううううううううううううう  
 まふのこまき流るるううううううううううううううううう  
 不二川のふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 河原のこまき流るるううううううううううううううううう  
 なるままのこまきをわわらふ流るるううううううううううう  
 なるままのこまきを流るるううううううううううううううう  
 わさつこにああううううううううううううううううううう  
 うらまの貫をうううううううううううううううううううう



漁村

漁村烟

濱

古跡

真砂路

磯

磯

磯

磯浪

中世

むらたちを松のさめぬる一むらや浦の海人すさう歌らん  
申よりく海人のともやん歌うらうとらふくはくろ烟うら  
その歌やすくねうらうん塩うぬのりうらたまはる海人かたけハ  
磯とらふ浦とらうら白波のちすするははきさたぬめるその事  
それやその海人うらうら一たぬひさく一き世のよき歌まのり  
白波のひとあ一そにすよせてくうとあををあゆむま磯路  
ほろつたあまうらうらうらうら一たぬ白目りてよまらぬめる  
つとえたる磯のさるまは波の上にならうらそのたはまひうら  
をまといふ浦とらうらて波のまのあまをくうらうらうらうら  
こたえけおさうら一まらあら磯のさるまはまはせよあの白波

磯凡

磯海人

嶋

小嶋

遠嶋

磯馭廬嶋

嶋烟

洲

夕浦

山をめぐり松をたたくらうらうら何のあまう浪あらうら  
波ふりうらまあふよちて見ひうら海人磯のさるまはく  
そとれ人のすさうら日の本のたねのまのさるまのちま  
海にの海の中うらうらまをくうらまの早まうらうらぬ  
まうらよまをれ小島のさるまはく一まあまうらうらうら  
あゆむ何うすむらん林せより人のまのまの海人のまの  
ちまをそのちまうらの海の歌をうらなめうらうら林のうら  
人のすむあねれりやせの中をまをれ小島なりうらうら  
あらうらのまをくうら海のゆよせてまをくうらうら海のまの  
夕月と入月のうけとたのうらうら二つの浦にあくうらのちま

中世







都人

故郷

けすの浦いんしん平らのまあ〜とむうのすれを修らう  
 何れとてなれぬ人並ふたれんおのちうりきこふ  
 あられん今に時をとりぬらう〜おちうらの人のあまた  
 葉えりむく〜浪のたさ〜いあね〜  
 古のいさ〜むう〜のち〜し〜き〜のう〜ん〜あ〜ま〜  
 あり〜い〜さ〜う〜昔のち〜う〜と〜浪の侍〜  
 あつれていさ〜う〜流るめり〜ふた〜れる川つ〜のり  
 浪つ〜ち〜の昔のわ〜う〜け〜ぬ〜ふ〜く〜な〜浪〜の〜さ〜  
 昔〜う〜く〜せ〜の里ち〜う〜〜お大君の〜  
 里にあら〜は〜今に杖〜の〜か〜さ〜

水郷

里

名所里

古戦場

旅

ち〜を〜た〜あ〜ら〜す〜ぬ〜ま〜や〜仗〜の〜さ〜に〜は〜ま〜  
 おの〜の〜あ〜ら〜し〜世〜を〜い〜ま〜う〜け〜ら〜ふ〜の〜ま〜を〜  
 た〜は〜や〜の〜時〜は〜い〜さ〜い〜あ〜れ〜おの〜あ〜れ〜又〜う〜り〜  
 椎の〜ま〜ふ〜た〜れ〜り〜む〜う〜〜や〜う〜ぬ〜や〜の〜か〜の〜草〜の〜花〜  
 う〜ま〜ふ〜つ〜け〜ま〜こ〜面〜は〜ま〜れ〜を〜山〜を〜ら〜う〜つ〜ら〜て〜  
 旅あ〜ら〜ん〜い〜さ〜う〜何〜と〜ま〜く〜たり〜ら〜ま〜の〜の〜は〜あ〜の〜  
 む〜う〜〜旅あ〜ら〜ん〜い〜さ〜う〜何〜と〜ま〜く〜たり〜ら〜ま〜の〜の〜は〜あ〜の〜  
 旅名目〜ん〜く〜れ〜ふ〜ち〜う〜ぬ〜ら〜〜人の〜ゆ〜き〜の〜あ〜ま〜  
 ん〜の〜あ〜ら〜て〜さ〜ら〜草〜花〜あ〜の〜中〜う〜そ〜旅〜人〜の〜ゆ〜き〜  
 古〜の〜ち〜う〜す〜れ〜旅〜あ〜ら〜ん〜い〜さ〜う〜何〜と〜ま〜く〜たり〜ら〜ま〜の〜の〜は〜あ〜の〜

夕旅

旅宿



旅友

旅りあふ旅人ともをさうーさいたういふほころあつた  
別やまき旅の友とあそべたれあそびくつ草枕して  
蜀中眺望 志ほしこの山とくろをさうちあてこおろす旅のほをさうと  
旅の歌よをる中り

鈴り森よて

旅人のうそは草もすれをさうくろふさきさぬのなくれ  
同一所を荒井の崎の笠嶋とりよよーなれハ

鎌倉の里よて

ぬふさるる笠嶋のあれとさうのこよてあそびわいさ旅衣うれ  
うぬくらハ何くれまき苦むしてあつらふさあられぬりる

いの湯よて

なる社のまのこはーそれさうのさふたさうのーまらよつた  
薩多峠よて

小夜の中山よて

今をりよきとてゆへ田の浦らふのやうハあそびさうと  
これと旅のねさうのさやハあそびあそびさうのハ衣さうらうハ  
伊勢の國朝明の里よて

昔はあといくさけあそびおめりの里のさハたをせらん  
四日市の宿よて父ふさのせーさう足のねやここのさうりらる旅衣



うねさふふさうりいひまてのうねをぬきそくろくろれ  
鳥羽みて松隈の何ううはあふ宿りて別れぬんとする折ふあう名残  
をうて徳向桑溟別藝園風煙百里黯消魂ねとりうううをうて  
あうらうう

やむをえん袖はううとねつうきわつたまりひとをてゆく  
鈴鹿山みて雨ふあひくる時小雲の巾行ちちせられられハ

たきよのよううえんあふらう一人後すやらうちあるらん  
難波を旅立ちらる時ふ古々の人や待らんとりらるらんふうう

待らんとならぬとされぬふさうあうのううあわれとめて  
柳子う春の別りひたせらうう

は日さうううのりあふあひまきまのまはんううあう

木曾のこ坂みて

日教へてあまうわう藤衣きううのこ坂をあせりあえつ

信濃の國小野の庵みて

二年をへてうのあすらんをこめらううせふうてあまのうは

和田山みて

世の中はあやなうんまわろせハ和田のうりふまきわあり  
伊香保の原より近き國へのええ流る中ふ我おんのをまへんうん  
又えたれハ

埼玉のわのあううえんあしあうううううううう



有馬の出湯あふふとて田中千村をめて旅立ちる朝誰彼見送り吹上  
の宿まできて別れにふるふるよめる

ふみちり人をまきひてまきつらこの旅よあらふまきとま  
氷川の神主井上重信うらふひらふ雨の日ちりられハつれくとちうを  
とひし山里うらふちてまきとまよとておせりらるる

旅そんれひのりの旅おへにわらてゆへんまおれつ  
弟重義ハ早くより江戸ふまきをねりらるるを旅のゆへてふとらふて  
わうらとちりり

旅のそんれふあつたをうらつてふれいといふわりのり  
旅ふ出てより五日あめり雨ちりらる時ふ

旅ふ出てより五日あめり雨ちりらる時ふ

木曾の山よてある時ふよめる

大和の國當摩寺よて

河内の國藤井寺よてよめる

三輪山よて  
たふくと三輪の山をたふはるる  
鳥羽の日和山より多度山をへさけて







寺

さう傍あつぬのひえいんねきさのこまねの酒ちあらん

山家

山家のこけふたてーやつらうそむうー是ゆるあう家村

山家客来

花をそあるーなうりれたはの片山望ん春のまれ人

山家燈

山辺ふ人のすまうんまりらめてうらうら申る燈火のうけ

燈

ふりーひの何のまてまきるうんれりそのほをあーま

燈下夜話

そんちうーと燈下へ燈火の影入影うらふあそ文ふる

巖

うまこねくたてうらわを團土のほよとありて世にひらけん

峯巖

雲のいほついでむらうそんれゆのうそさー昔をそあふ

礮巖

麓ろていんらいろいーゆるそとねみんゆのまのえむら

礮巖

たつたそふらるひらとあーあうらうらうのいそむらほの碎けて

苔

たんきせー非をまうゆのなふのてあせしーいんらうの苔

屋上苔

日よやうーやぬのうらうのつこふたえねてあふ苔のむすらん

山居苔

山うらのわらわらうー苔むしてそんらの庵ふんそすこらう

閑居苔

くちめれいむーや復らん山居なりの板井の苔ーたくねを

軒苔

山うらへ何あさるらんあをくーと苔のむしたるねのいさし成

庭苔

んちうー苔さくぬさて拂ようーうそてなまるねはえすーと

茶庭苔

のらいつららぬまやの庭に苔はゆー志をうら戸明てらんふあまらね

橋苔

春はく苔のむーうらねまらー冬のをおよりほらうわらん

水辺苔

ねうけの山居の苔ははたれとあせんそのねははれあうらう

巖苔

人のせのうらうらむらえむらえ苔のむしてはうれんとすらん



老松

松原

- 小松原
- 並木松
- 孤松
- 山松
- 峯松

我々も千あゆみの松のよ年一のうけハいつぬらん  
 さふらたつうとさうり葉をりやとわつるまりさる松  
 おふ日さ風をいぬてうけをこのまぬ松人れちう  
 月我ひるうとさうりさゆる松を松原のこにやうとえりり  
 つれなる松ゆふいさくぬれハ松ふはまきさちちさすれ  
 候うらるまきさるふいらみでた松ゆきさるお松はひり  
 世の中よ松ま一樹を植ぬらうとまきさく松のまゆら  
 いのちハ何そいあえんひら松樹き風ぬうらよそれん  
 松あらぬ山のそとてハ松うらりあう松たはひまうれと  
 なんちくさる松ふのひら松樹ぬらうらんとあて

固松

- 古郷松
- 仙家松
- 庭松
- 海辺松
- 湊松
- 磯松
- 根上松
- 松陰

きり松は言松の松のひとむれハ幾山里のさうひあるらん  
 たるまきく松ふらうと幾里のまきまうらん固の松系  
 之ゆりえんハ家さあれをうらうと松まあうと吹く  
 叶らぬまきやの山のひめと松しやうとさふ二世うんゆく  
 位りらある一のまきをまきひていくようゆく松の松松  
 位ののあられ松系まうらにえれぬあうぬあられ松系  
 幾浦ハ松きうらの泊うと毎束ハと一のまきまれと  
 波ぶらのみとを植うあら松のおみすうのをうらうら  
 玉降のるり人のうらまてねさうとさく松する松うぬ  
 うく人ハおちえたえぬとうけさるふとさうとてハ松あ有ら







位をいしきまをさるる人序をさのゆきまの神と君うこの世を  
世をさるるえひすの神の風にあらへるふたふ吹返さるん  
渡會の内外の御社ふまのりて

あつては多ひはりのしきく冷のふ十のまふりあまのれ  
平野基名の伊勢の海の干魚をたせりふふらふ

いゝをあひまふふゆる古の海よりゆきささるるきうね  
ある人のえへせうをさるのゆり

あそれんたひおとせと津の玉の難波わりの旅のまらね  
伊勢の國多度の御社ふまのりて神主忌部の安國をさふらひてぬえと  
まらるとまふ旅衣を列せあら白雪のへらるをねとよみて

牛ーらるるうー

あ風ううにたひひとあまま交ふのさねおらとをまきぬ  
ある人忠の字のん旅のこそとをさるふ自他の二やうにわらてよめる

つらうらと君うたをふいわするてよ方のねとら城をあらん  
君うのひふねをさる方のとんすねとあふうりてねうきうね  
のほりうけに伊勢より難波人うりひひやりらるる

らそきゆくひねねありのあーわりの舟まをねるいせの浪  
難波をさるるまふそのすらとあふうり人のまねりらるに送る  
君うありのそのまら山はくまをくうまゆく旅のこころあうら  
人の旅うむたうふらひやりらる







京の高島式部より古谷土子にせうおきりてこつて一りりれい  
雅波はのう先のことひてさるのまうふいふときあひのきこゆれ  
堀田正兄うとる錦臺の額の歌

花のくみおきあつた人のさみくさやうてはしものうなねらまじ  
秋をちきりし人の旅ふさうりるうらとへ候りにひやりりる

ねんうけぬいふそり信松といひ一葉りたうはあを信りり  
伊勢の國めて民とんにあへたるうと

さるねよ極さふすれいねねのめ秋とこのる神めあつた  
父のめとに來れるよあよお供あへたる

雅波はのねふいふあれ残香ふあちよとあはれうらふせよ

志摩の國めて上原日義麻呂うとひ來りりるりあへよ

あはれのるのなと一葉うらふあへいあちうらねあおゆるあれ

信濃の國笠取峠の人よをねて

旅人のこやいとうをぬりうらゆえうさとうらねあふはねらん

ある人のくるたのつうらふ不このひのあつきたる見ふ

あはれうらうねるうの山うけをあめのみしてみてる見ふね

長田紫之う來りりるをひるけくよちと待せたまきたりりるふとこの

事ありとてゆりにられいあちとせりりる

くやうとあちりねりりおくつふをちとよむとゆふより

ある人のくる西三条公條卿の書あつる新古今集の奥書



あはれみのあはれをさるるもやうにせいのにせよせよとて  
男よ昔ありてうへたる物うらうらとてにあらなるうらうこの秋

あはれをさるるもやうにせいのにせよせよとて  
蓬萊山のうらうらとて

ありとらよとてさるるもやうにせいのにせよせよとて  
ある人のをる福寿草の繪り

あはれをさるるもやうにせいのにせよせよとて  
水ふ目のうらうらなるもやうに時鳥あり

あはれをさるるもやうにせいのにせよせよとて  
あはれをさるるもやうにせいのにせよせよとて

庭草をさるるもやうにせいのにせよせよとて

あはれをさるるもやうにせいのにせよせよとて

あはれをさるるもやうにせいのにせよせよとて

あはれをさるるもやうにせいのにせよせよとて

あはれをさるるもやうにせいのにせよせよとて

あはれをさるるもやうにせいのにせよせよとて











貧人

盗人

旅盗人

山賊

乞児

夷

異國人

いづるも和室のふ川を流るる一しものすまふりりめて  
 うきまのいそぎよりうまうてふはきんあつた  
 親はさうぬさうまうたれてははるやぬぬす人こそ  
 あさましくせふあす人の名をたてぬと親あらしはれ  
 めすむてよるそののれぬえさるは花申さるうまうまお  
 別甲すまうたててうれまははぬあす人まをせりり  
 今の世ふらうちうへまあ一りのみの山のいぬま  
 けのいふふあふあるたぬあるの夜を時せりぬをふり  
 ひらけ申へえのれは日の本のまふうてうまうりし  
 うまうまうふいれと何あらういぬあつたはるえり

外國貢

人事

釣

深夜鶴

ある人のこる雁馬のうい

鶏  
鳩  
鳥鳳

天のちんたうこふりのあうたひてつんまのうまうた  
 なるのまき人のうぬりうりあてまてねをあらうら  
 なるのい解をむさわつて世をわける人のいぬり  
 たりうてるやうらう山を出て尾長のるれ里うてう







五色の題のうち小黄

迷懐

わがまて思はずもぬのさのをたねさし心おきくはらぬ  
風もくちまらさうらうらきさきももつて何をかおぼしめしつらん  
とぞくさくさくおぼしめしつらんさきさきこころおぼしめしたまひ  
よおぼしめしつらんおぼしめしつらんおぼしめしつらんおぼしめしつらん  
おぼしめしつらんおぼしめしつらんおぼしめしつらんおぼしめしつらん  
おぼしめしつらんおぼしめしつらんおぼしめしつらんおぼしめしつらん  
人のせうとをさうして思はずもぬのさのをたねさし心おきくはらぬ  
せうとをさうして思はずもぬのさのをたねさし心おきくはらぬ  
今こそ思はずもぬのさのをたねさし心おきくはらぬ

寄川迷懐

懐旧

故の十七田の御忌小春懐旧といふ題をとりて

くしく小春のめこそあるぬといふ昔り似て今日も

松田直慶ら父の一周忌小暮春懐旧といふ題をとりて歌をうりけれハ

大なる春のこころれはあけぬきよきよのねらひやうよきよ

夏懐旧 ほんきんあむむらさきのひきよふねうらひそをちうらうら

長田柴之助父の十三田忌小秋雨といふ題をとりて歌をうりけれハ

むらうの秋をうらむらうらうらうらうらうらうらうらうら

ある人の父の三田忌小寄露懐旧

今もはちや心のゆき人をぬきりせはれた秋のちかけけれハ

ある人の一周忌小寄風懐旧といふ題をとりて歌をうりけれハ







雅波にやわたるあゝの祓ふめて春林なくたひさうゆらん  
川俣氏の人の年賀ふ歌をうる小

六十賀  
あゝせのちうとすまひひよりそ人のせよあうさううねらほし

ある人寄亀賀の歌をうる小

限りあれぬのよまひぬねわらうとまふ人のりさよらん  
末のせしうとを人のりさよらん

祝  
ちりやめる林のそりき一人のよめいづをきとてまおしうらん  
君うりのねらうの川にうまひあはれぬまの山のまつくぬらん

寄星祝  
大空のちりいりりてそりてくはあまのこひのこひにきせし

寄山祝  
うとまねきしらひの言ねや美代んしらひの言のまづ先かえん

寄松祝  
ね日教さすやき松の松のそめりらんうらんぬあうとてうのね

寄家祝  
こやうのせめめうんくつきたつる石のちりうのこひまの世や

寄岡祝  
ふゆりるをねらうのまをうつき田ん畑のたひまこいんらん

祝國  
むあしよりいらけくしてつめのあまのたなるま今のこよよのね

祝世  
たうとまおんえまねねうらんはしえんまけとまおんあせ

祝今世  
さうほまのいつたりゆく日の本のやまて國をうらなうさうらん

社頭祈世  
いのらおんねまうねんまきさう世成たひらの言とねやさうらん

大掌會  
古くよさうぬる君う代やあまふうやのこいつりりて

大板  
今るとりいけさう大板あたらうらんま日の本の國つ派をハ



雑体之部

旋頭歌

若水

我がうら春の衣をよそほひてこれかきかへしうら若水の  
若水のうけ

鯉をひて

けむねきやうそあふらん今日のさうねふさおせのんすゆふ  
せりし若水のうら

虫

わきんらうさすやうそをわかの月よてゆらくとさるねす  
庭のねま

ある女の肖像ふきとれて

異國へくみのまねるこゝに

あゝにねえやとらふてよふてふらうらうらうらうらうらうら  
うらねほえて

異國船

うらうらの國のえうらうらまのうらうらうらうらうらうらうら  
こまやうらうら  
えうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
えうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

祝

うらうらの天のめほそこのるそたうらうらうらうらうらうらうら  
大やうらうら



物の名

すくり

野原ゆけふ萩う白たんすり花をぬき神人花とらるまで

まのふ

あまをいそくむぎのうの山をうそて果たしらるま

うらん

まのふ花うらうわー春のうをむねてきふらり秋の月よに

藤三ツ

百くまの花のまごうりむのまの世に秋涼くぬまごうま

草の名五ツ

さわみーとられいそ世をぬけしゆしかーうまの山風そく

月花を三ツつたち入て

うかりのふらそをゆくまらんまの君ゆえをい流一ツ

月花を三ツつたち入て

うらまごつ君にぬきまらそまらたまらうらまらまらまら

折句

うらまをせ

うきこをけうるるな花うー花のゆくをせまらるて

うらまをふねむおうらまら又花うまのいせく人のまら

上小蛇ニツ下小蜂ニツ折句

あれぬらむいそら花松平あらんむとやをうらまらせらる

廻文歌

夕露

白糸のふまうれいあぬれ新あてけいれぬま月みゆつら

月

ぬらむらうまやあそれ月と東にまられいあやまら

山雪

てるうぬりこのいそまらいこのまのまらまらしこのうらまら



薰衣

梅のうらけ花さぬふもはつとふぬきぬをばこころをむ

俳諧歌

花

花えんとむきくろ人をむむのこころあはら法師のころお有る

花山より浪人をとて

時つ風花をぬらさぬ小湾の花よのーある武士のぬらさて

ゆけくひくろ時よ長田柴之うつしくし成者てたせれる使ふ

つとをたれりふりうぬうまきりぬりうふらをつくしうらぬ

抱筆

友のぬいふぬすくくまきりりたてくつめき行婦人ば

七夕

桐樹をうらやまうらやまききまのひむくろよまひ早うぬ

月

音ねすま人のにうらあはらうに月にしぬれぬるちうらん

意

意やうかへんかへんかへんかへんかへんかへんかへんかへん

しりすのふも花をーくるぬいけくろくはにうらぬれ

せふたれしりあぬうらぬ

うらさきをたうらくぬらあはれけふらうまをぬれぬぬぬぬぬ

法師

まうりたる法師のを定まうて新成の法をうらんとやん

建國寺の若法師の入院ふまぬれらる時ふぬらぬれらるうら

極楽の外ふにあらひけさのきけとをうらぬのすまのうら

老法師の餅の事をんぬらうらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら

人のたうらやまうらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら







催馬樂振

縣居の翁城あれる 夜去を高付ふうこそせしむ

こころけくやうきくきくやうきくやうきくやうきくやうきく  
たうたうらんやうちあけやうきくやうきくやうきくやうきく

殿の御くら町の事小うつらひて安房の國ふまゝなれりける時ふ浪辺の  
こちふ蟹をうく多のつり物をもたさうれふ

浪のりよのりねつき蟹よ何のよひねけをいさや  
こつきをさうけてはたうーたうーてさうけふよをさうえんや

今様振

たさうれふくさくのむきくをまうらうて作まうりるその有らうときふ  
昔の白拍子靜の御をさうていよ題よてたさうれふ

あつのはさびのあききたふあつきのあつはさうきふうらう  
えちうれーたさうけをいつのせふうらう日すさうきたさういめさふ  
いさうきく親の思ひ子の思ひねくれてさふらうきく免をの  
ためむちうらうのたさうゆるたさういさうて一併の方便ちう  
うれハ神のたすけられやたけハあなうらういさあ  
あよけハあなうらう花ささく





万延刊本



